

活動報告書

報告者氏名：大野 寿久 所属：広島県立庄原特別支援学校 記録日：平成 24 年 12 月

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年
高等部第 1・2・3 学年（全 57 名）
- ・ 障害名
知的障害
- ・ 障害と困難の内容
学習上，知り得た情報や知識等が断片的な記憶になりやすいことがある。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
シンガポールの姉妹校との学習成果の発表や意見交流等に録画された映像ではなく，ビデオチャットでお互いの反応をリアルタイムで感じながら交流すること。また，交流を通じてグローバル社会に対応できる幅広い視野や自分の意見，思いを伝えるスキルを身に付けさせることをねらった。
- ・ 実施期間
平成 24 年 11 月 7 日（水），11 月 9 日（金）
- ・ 実施者
大野 寿久
- ・ 実施者と対象児の関係
学部の担当

【活動内容と対象児（群）の変化】

- ・ 対象児（群）の事前の状況
今年度，姉妹校提携を結んだシンガポールの知的障害のある子どもの通う学校 2 校から 10 名の生徒が 9 月に本校に来校し，交流を深めた。その後，「Edmodo」というアプリを使用し，お互いの学校の様子や写真の交換等に取り組んだ。本校の生徒たちの多くは「シンガポールの生徒たちとまた会いたい。」と発言していた。
- ・ 活動の具体的内容
事前の打ち合わせに「Edmodo」を使用し，当日は「Face Time」でビデオチャット交流をした。映像を見やすくするため，プロジェクター，音量が小さかったのでワイヤレスマイクを使用した。
シンガポールの生徒たちがスクリーンに映った瞬間，「やったーまた会えた。ハロー。」などと大興奮する生徒の姿が見られた。その後，お互いの学習成果等の発表やパフォーマンス，授業風景，生徒同士の意見交換がリアルタイムで交流できた。また，相手校の生徒に本校の生徒が「学校内が見てみたいです。」と発言し，シンガポールの学校内の様子を紹介してもらうこともできた。

・対象児（群）の事後の変化

シンガポールの姉妹校とのビデオチャット交流後、本校の生徒たちから「シンガポールに行ってみたくて。」や「手紙を英語で書いて出したいです。」「またシンガポールの学校 みんなに学習の成果や作った作品を見てもらいたいです。」等の意見を聞くことができた。また、英語を使う生徒たちの姿が多く見られた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

9月の交流や今回の iPad を活用してのビデオチャット交流の経験で、本校の多くの生徒たちに見られた、話がしたい、思いを伝えたいという気持ちを精一杯の身振り手振りとかたことの英語で表現しようとする姿から他国の人たちと向き合おうとする姿勢を強く感じる事ができた。この生徒たちの姿は「Edmodo」を使用してのお互いの学校の様子や写真の交換等に取り組んだときには、あまり見る事ができなかった。実際の対象となるシンガポールの生徒たちが目の前にいないため、状況と情報が繋がらなかったのではないかと私は考える。

・エビデンス（具体的数値など）

「Edmodo」での姉妹校からの学習成果の写真や動画を見せたときに比べ、相手の反応が見られるビデオチャット交流時の方が生徒の反応が良く、興味関心を示す様子、発言回数が増加した。また、言葉が通じない相手にどうにか自分の思い、意見を伝えたいという気持ちからこれまであまり見る事がなかった身振り手振りを使う姿が多く見られた。他者に自らの思いや意見を伝える場合、全身を使い表現するというスキルを今回の経験により自然に身に付けたのではないかと私は考える。

・その他エピソード（画像などを含めて）

シンガポールの学校と姉妹校提携を結び、交流をしていくことが決まり、事前学習として国立国会図書館の学校図書館セット貸出し利用を希望し、シンガポールに関わる本での学習を行ったり、本校での交流後、自分たちの学校での交流の様子が載った新聞を活用して事後学習を行ったりするなどの取組みも同時に行いながら iPad を海外交流事業での一つの強化ツールとして活用することができた。



学習成果（文化祭のリハーサル）を見てもらい、意見交換中の様子



姉妹校の授業風景（接客授業）



校内を紹介してもらっている様子



「Edmodo」を活用して情報交換や学習成果等の交換交流を行った。

